

2011 年 12 月 9 日（金） 13：30 ～ 17：00（受付 13：00 ～）

建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

参加費 一般 1000 円 学生 500 円

※参加費はすべて東日本大震災復興義援金として被災地にお送りいたします

定員 150 名

I. 趣旨説明・総論

大月敏雄 東京大学大学院 准教授

II. 講演

1 縮小社会の家族像—未来不確定時代の住宅とは—

山田昌弘 中央大学 教授

2 縮小社会の家族と住まい—これからの家族と住宅に求められるもの—

園田真理子 明治大学 教授

3 縮小社会の住まいのかたち—これからの都市生活とは—

古谷誠章 早稲田大学 教授

4 縮小社会に向けた住まいのかたち（事例紹介）

—多様な可能性を内蔵する住まいコレクティブハウス—

宮前真理子 NPO コレクティブハウジング社 副代表理事

III. 討議

パネリスト：山田昌弘、園田真理子、古谷誠章、宮前真理子

司 会：大月敏雄

家族像の変容と住まいのかたち

平成 23 年度重点テーマ「縮小社会における住まいのゆくえ」連続シンポジウム(2)

20 世紀後半の経済・政治の混迷期から抜け出せないまま、現在は、21 世紀後半の縮小社会に向けて、その過渡期とも言える縮小化社会に突入している。縮小化社会では、人口減少や少子高齢化による生産人口の減少により、経済規模をはじめ、賃金、利潤、不動産価値など多くの経済的側面が縮小すると指摘されている。一方で住宅ストックは増加するものの空き家が増えるなどの空洞化が進むと予測されている。その様な状況の中で近代産業をベースに成り立ってきた家族像は如何変わり、暮らしや住まいに如何影響していくのか、識者による未来の予見により、対処療法に陥ることなく、「豊かに暮らせる家族像と住まいのかたち」を構想する。